

「私の本気」を見てみたい？

～1 学期終業によせて～

2022・7・20 校長 重枝一郎

前回、満員電車の中で具合が悪く、つらそうな妊婦さんに声をかけた生徒たちの話をしました。この行いはとてもすばらしい。そしてその行いに気付き、席を譲る行動をした人たちもすばらしい、それはみなさんも思うところでしょう。

人は、意外と他者のネガティブなところはよく見つけることができます。ところが、他者のいいところは特に自分に迷惑がかからないということもあってか、スルーすることが多くなります。私は、クラスで友だちや先生たちの「いいところ探し」をよく授業中にしていました。いろんな読み物を読んで、道徳的なことを学ぶことも大切ですが、身近な友だちや先生から学ぶことも多いのです。そこで、私はよく「お互いが教科書」という言葉を言っていました。身近な人たちと認め合うことで、その場の「ワクワク感」が生まれるからです。その全体の「ワクワク感」が、一人一人の「ワクワク」を広げてくれます。それが、「自分よし・相手よし・みんなよし」の感覚です。時々、「あの人にはいいところがなくて、教科書にならない」と言う人がいます。でも私の考えは、その人はとてもハイレベルな教科書で、難しい問題が多い教科書という風に捉えています。勉強と一緒に、簡単な問題ばかりしていても力はつきません。校長として、いろんな人の素晴らしいところを見つける力を持った人が集まっている学校にしていきたいと、昨年度赴任した時から思っています。

話を戻しますが、前回の礼拝の後、この満員電車の話をして、図書館の先生がすぐ私のところに来て、「とてもうれしい気持ちになりました」と喜びのメッセージを言われました。また、礼拝に参加されていた阿久戸院長先生は、「とてもいい話でした。うれしくなったので、突然ですが、今日の午後授業参観させてもらっていいですか」とおっしゃって、私と一緒にいくつかの授業を参観しました。みなさんの授業での様子もとても感心されていました。これも、全体のワクワクが、一人一人のワクワクを広げたのだと思います。

今回は、「私の本気を見てみたい」という話を書いています。「勝負の夏」に向けて気合を入れてほしいという思いからです。本気になるには、前向きになれるクセをつけること、そして、本気になるには失敗や挫折が必要だと思います。私も？私は？学生時代よく先生から怒られました。失敗もしました。でもあまり後悔はしていません。それは、きちんとあやまることをしていたし、前向きな気持ちをもっていたからだと思います。特にあやまる時は、素直にあやまることができていると思います。だから、ずっと笑顔で学生生活を送りました。そして、ちょっとずつ成長していたと思います。みなさんにも「生産的失敗」を勉強でも生徒会活動、部活動などでもどんどんしてほしいと思います。

さあ、「勝負の夏」です。勉強も様々な活動も、みんながんばっていると思いますが、思うようにならないこともあるでしょう。でも、なんでもそこから勝負です。そこから「本気の自分」が見られるのです。下に「本気の自分」の考え方をまとめます。

1つ目は、どんな環境でも、与えられた場所で一花咲かすことが重要ということ
ことです。これが、どんな環境でも楽しめる、前向きになれる「クセ」をつけていく

ことにつながります。そういう「クセ」をもっている人は幸せな人生を送れます。

2つ目は、「私の本気見てみたい?」とかよく冗談で言ったりしますが、「本気の自分」ってどんな感じなんだろって、自分自身が見てみたいと思いませんか? 「本気の自分」を自分自身を知りたいって思うことが大切だと思います。

何かにチャレンジする、でもそれだけでは「本気の自分」ということにはならないのです。やっているうちに必ずうまくいかないことが出てきます。やってみて、思うようにならないとき、そのときからが「本気の自分」ということになるということを知っておくことが大切です。なんでも勝負はそこから! 「本気の自分」が見られるのはそこからだと思います。

生徒のみなさんは、「2学期が始まる時に、自分はこうなっていたい!」というワクワク感をもてるよう、まずは、「こんな夏にする!」と目標を立ててほしい。期待しています。